

第3回 学校運営協議会実施報告

<p>1 実施期日 日程(時間)等</p>	<p>1 日 時 令和7年2月17日(火) 2 場 所 日立市立日立特別支援学校 3 参加者 学校運営協議会委員 6名 事務局 5名 4 日 程 (1) 授業参観 10:20~11:00 (2) 学校運営協議会 11:00~11:50</p>
<p>2 主な議事</p>	<p>1 学校評価の結果について 2 地域学校協働活動について 3 学校運営協議会委員からの意見</p>
<p>3 学校運営協議会委員からの主な意見</p>	<p>○子どもたちは授業に生き生きと取り組んでいた。小学部1年生から高等部3年生へと各学年で成長した姿が見られた。 ○学校評価にあった保護者意見と同じで、生活簿を毎日楽しみにしている。先生によって書き方が違うのは分かるが、保護者が読んでほっとする内容だとありがたい。 ○何かあると生活簿ではなく、担任から電話をもらう。成長に伴い自我が芽生え、親には言わないことも、友達や先生には話しているようだ。家ではギスギスしているが、学校では楽しく生活している。小1からお世話になっているが、卒業を間近に控えて学校はありがたいと感じる。 ○宿泊学習や修学旅行に付き添って感じたことだが、子どもたちは学校と家庭では見せる顔が違う。他の保護者と話すと、家庭では難しいことも、友達や先生となら頑張ることができることも多いことが分かる。物価高騰や積立金のこともあるだろうが、宿泊学習や修学旅行の行き先は、家庭ではなかなか経験できない場所にしてほしい。(USJやTDL等)</p>
<p>4 協議事項・内容等</p>	<p>1 建物(校舎)が古く、狭いこともあるが、教室内の環境は整えなければならない。情報過多は、子どもたちにとって厳しい環境である。特に発達障害の子どもたちは、いろいろなものが目に入ってしまいう傾向がある。 2 子どもたちの作品、障害者の表現について、深く考えながら指導する必要がある。現在、作品展のもち方を県としても検討している。子どもたちの表現できる世界を広げて、豊かな心の育成に繋げる。 3 胃ろうの子どもたちは、ペーストにした給食を入れられない。学校ではなく、県や国への話になってしまうが、親としては皆と同じ物を食べられないのはさびしいと感じている。同じ食べ物でなくても、同じ場所で、何か皆と一緒にできないか。今後、PTAや手をつなぐ親の会等の組織(数)の力で動く必要がある。全国的な声にしていくためには、粘り強く地道に世論を動かし、制度化させていかなければならない。</p>
<p>5 学校運営協議会における決定事項</p>	<p>1 11月9日(日)に油縄子交流センターにて「秋祭り」を実施した。また、3月12日(木)には、中学部生徒と地域住民との「ポッチャ交流」を予定している。参加できることを楽しみにしている住民もいる。さらに特別支援学校への理解促進につながっていることから、今後も学校と地域との連携を進めていく。 2 来年度の学校運営協議会委員について 永井 立雄 様には4年間、照井 修 様には5年間にわたり委員を務めていただいたことから、そのご尽力に対し謝意を表した。 令和8年度については、平成23年度から平成25年3月まで本校校長を務めた大沢 靖司 様を、委員として推薦することを決定した。</p>